



11月18日（木）に学校運営協議会委員研修会を開催しました。文部科学省CSマイスターの宮田幸治先生を講師に迎え、『Society5.0時代』の学校づくり・地域づくり』（～コミュニティ・スクールがつなぐ新たな学びとは～）という演題で講話を聞きました。参加者は31名でした。講師の宮田先生は、広島県府中市教育委員会で小中一貫教育とコミュニティ・スクール（学校運営協議会を設置している学校）の推進に長年携わっていられています。講話では、学校運営協議会の役割と、府中市のコミュニティ・スクールがどのように活性化していったのかを具体的にお話いただき、参加者からの質問にも丁寧にお答えいただきました。質疑応答の内容の主なものを紹介します。



**Q1 コミュニティ・スクールを日本語で一言で言うと？**

A1 端的に言うのは難しいですね。「地域協働学校」という風にも考えましたが、堅くてイメージしにくいです。地域・学校・家庭で子どもたちと一緒に育てようというその地域のシンボルマークを作っていくことが必要なのです。言葉では無く、そのマークを見たら、その学校のコミュニティ・スクールだということが分かるようにすることが必要だと思います。

**Q2 コミュニティ・スクールのイメージがわからないが、学校の授業の中でどのくらいのウエイトを占めるのですか。**

A2 コミュニティ・スクールは、行事をするための組織ではなく、今、こんなことが学校や子どもに必要ではないかという議論をするための組織です。したがって、全てに関わると言えば全てですが、学校から、「この部分をお願いしますよ」となれば、どんなことが出来るかを学校運営協議会で考えるということです。逆に、地域から「学校にこんなことをしてもらいたい」ということを提案することもあります。つまり、学校と地域の双方向の関係性というように理解してください。

**Q3 府中市はコミュニティ・スクールで学ぶ4つの視点「地域を学ぶ」「地域を生かす」「地域に貢献する」「地域と学ぶ」を大切にされていますが、近年は子どもたちが学ばなければならないことが増えてき、私の学区では地域との関わりが減ってきたように思います。学校運営協議会でどのように考えていけばよいのでしょうか。**

A3 校長先生に地域の方とカリキュラムマネジメントをしていただかないといけません。たくさんの中、何を残していくのか、そして、それを従来通りに行うのか、それとも、形を変えたものにしていくのかということ、学校運営協議会で話し合っていくという段階が必ず必要になるかと思っています。



**Q4 地域の中で子どもを育てることについて、保護者への対応はどうしたらよいのでしょうか。**

A4 子どもは地域の人を知っていても、保護者は知らないということがあります。地域のコミュニティにつながっていない保護者がいても、その子どもが地域の誰かとつながっていることで、大切なことを学んでいたり、親に言えない悩みでも話したりすることができるかもしれないと思います。そういう地域のつながりをどう作っていくかが重要であると思います。



**Q5 地域の方は、その地域の子どもたちに良くなってもらいたいと思いつながっています。そういう地域の思いを学校はどのように返していけるのでしょうか。**

A5 子どもたちがどう学んで成長しているかということ、学校は地域にしっかりと示していくことが重要です。そして、初めは、地域の人に関わってよかったと思えるような取組をしっかりと考えていくことが大切だと思います。関わった子どもたちに町中で出会ったときに、「おじいちゃん、この前はありがとう」と声をかけられると、「行ってよかったな」という思いになります。そして、それがつながっていくことで「一緒に行ってみよう」という地域の人が増えてくるようになると思います。

**Q6 コミュニティ・スクールで子どもたちや地域の方が大きく変わったということ、どんな形で実感しましたか。**

A6 コミュニティ・スクールが進んでいくということは、最初は行政だけがしゃべっていたのが、それぞれの子どもなり、家庭なり、地域の方が、コミュニティ・スクールについて語っていけるようになることだと思います。中学校3年生が高校入試の面接で、「うちの学校のコミュニティ・スクールはこんな活動が出来る。そんなすばらしい地域の学校なんですよ。」としゃべる子どもが出てきました。そして、それを聞いた地域の方は嬉しく、自分たちが関わったことによって、こんな子どもたちが育っていったんだと思うわけです。この話を聞いたときに、コミュニティ・スクールが進んで来たなど実感しました。



**Q7 金浦中学校区は3地区が一緒になります。一つにまとまると、今までの学校がなくなり、地域が沈んでしまう可能性があります。府中市では、どのように克服していったのですか。**

A7 府中市では、コミュニティ・スクールが出来るちょっと前に学校の統合が行われました。コミュニティ・スクールを始めようとしたとき、地域は、「一回学校を無くしておいて、さらに何をしろというんだ」という反応でした。しかし、そういう状況だからこそ、「コミュニティ・スクールの仕組みを使って、もう一回コミュニティーの賑わいを取り戻しませんか」という話をしました。コミュニティ・スクールというのは、今、皆さんが大切にされているものや、次の世代に伝えたいこと、残したいことをどうやって残していこうかということ、話し合いに出していくことが、まず、スタートになるのではないかと思います。

**Q8 地域外からの生徒が多い場合、地域との絡みをどうしたらよいのでしょうか。**



A8 京都の京田辺市で「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣賞をとっている学校があり、その学校は地元の子が3割、地域外からが7割です。この学校では、「この学校に来たら、こんな子どもが育ちますよ」ということを明確に打ち出しています。そして、地域外からであっても、この学校に来たからには、この学校の子どもであり、保護者であるという視点に立って、どの子どもも保護者もこの地域との関わりを大切にしたい取組を行っているという事例があります。

研修を終えて

宮田先生の講話の後、参加者から質問が次々と出ました。これからのコミュニティ・スクールの推進に向けて、参加者の思いが感じられる研修会となりました。今後もコミュニティ・スクールの研修会を開催していきたいと考えています。